

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-7		更新日	2025/2/20
サイト名		戦国時代 ^{あまこ} 尼子氏が加護した仏教拠点 ^{ぶつきょうざん} ～仏経山			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	出雲市斐川町神氷			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☐ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(40 台)			
	留意点				
サイトの解説	歴史・文化	仏経山(ぶつきょうざん)は斐川三山(他二山は大黒山・高瀬山)の一つで『出雲国風土記』の出雲郡に登場する神名火山(かんなびやま)に比定されている。風土記には、曾伎能夜社(そきのやのやしろ)に祀られている伎比佐加美高日子命(きひさかみたかひこのみこと)の社がこの山の嶺にある、だから神名火山という、と記されている。標高は366メートルあり、頂上からは斐伊川が流れる簸川平野や島根半島が一望できる。また、この山の北側麓に、出雲郡の郡家があり、出雲郡の中心地であったことが分かっている。 戦国時代に中国地方の覇権を毛利元就(もうりもととなり)と争った尼子経久(あまこつねひさ)は、仏教への信仰が厚かったと伝わる。尼子氏の居城であった富田城下の明星寺の僧で経久の参謀であった祈祷師明星客院の進言で、この山に十二の寺を建て、薬師十二体を安置し、山名を仏経山と改めて、戦勝祈願、戦死者供養、尼子家安泰などを祈ったと伝わる。			
	地形・地質、生物・生態等	仏経山(366m)は、流紋岩(＝斜長流紋岩)とその火山砕屑岩で構成されている。この地域の歴史をかざり高瀬山(314m)や大黒山(315.3m)も同じ流紋岩でできており、大規模な火山活動であったことを示す。水冷自破碎した溶岩がみられるが、松江市宍道町佐々布旭で流紋岩火砕岩が深海性泥岩に挟まれていることから、深海海底火山であったことが分かる。また、斜長流紋岩の特徴から島根半島の大船山や朝日山(ともに神名火山)などの流紋岩に対比され、1,700～1,600万年前ごろとみられる。山の斜面には、巨石が点在しており、磐座として古代史研究の対象になっている。			
写真・図等					
参考文献					



仏経山の斐川平野側からの山容



仏経山の南側、上津地区からの山容